

---

# 自由都市の方針

青龍刀 長船

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

自由都市の方針

### 【Nコード】

N4554I

### 【作者名】

青龍刀 長船

### 【あらすじ】

自由都市

そこは、能力者と否能力者が暮らす都市  
自由学園

そこは能力者を育て、力の使い方を教える学園

その学園の少年少女のお話。

## パーティー！！（前書き）

初作品です。

誤字脱字 文法など多分めちゃくちゃですが、がんばって書きたい  
と思います！！ 感想など頂けたら幸いです。

パーティー！！

夜の市街地に銃弾と機械音が響き渡る。

中央広場の中心に大きさでいえば15メートル位だろうか、大きな蜘蛛の機械が周りを囲む人間と戦っていた。

「カイ、右足をを狙って打て！！」

「わかってるよ孝也！！黙ってそいつの攻撃に集中しろ！！」

デカイ蜘蛛みたいな機械の右足に標準を合わせ両手の拳銃をむけると、いきなり目の前が炎に包まれた。

「千火！！前が見えないだろうが？！いきなり炎で攻撃するなよ！！」

「すみませ〜ん カイク〜ん 私もそちらを狙っていたもので〜」

「下手したら俺が、丸焼きになってたんだぞ！！」

「私の能力は発動が遅いので〜ごめんなさ〜い」

左後ろを振り返りながら、千火に注意を促していると今度は大きな鐘を鳴らすような轟音が。

「そこをお退きなさいカイ！！ 私のワンマンショーの始まりですわよ！！」

そんな声に反応し振り返ると俺がさっき狙っていた右足に金髪ツインテールの少女が鉄拳を遠慮なくズカズカと叩き込んでいる。

「ミキサーん、孝也の話聞いてました？そこは僕の標的ですよー」

ミキさんはそんなことお構いなくすでに30コンボ以上を右足に

叩き込みながら、邪魔をしたのがご立腹なのだろう

「黙りなさいこの平民が！！私の力に掛ければこんな雑魚ヘツチャラですわー」

と俺に罵声を浴びせながら50コンボ目を叩き込んだ。

このツインテール美少女、可愛いくせに腕力はハンパない、俺が狙っていた右足はまるで丸めた新聞紙のようにミキさんの周りに転げ落ちていた。

「向町くーん、どこか怪我してない？私が回復させてあげるよ」と少し発育の足りていないような容姿でおれの近くによってくるお子様……いや、三井楽ハルナだった。

「どこか疲れているところはありますか？、最近覚えたこの能力でなんでもなおしてみせるよ！」

「いや、僕より孝也のほうが危ないと思いますよ？」

「そんなことないよ、小泊くん強いから…ホラ！！」

そこには身の丈ほどのロングソードをまるで踊っているかのように振るう孝也の姿があった。

「スゲー残り五本の足を平然と叩き切りやがった」

「ホン〜ト、タカヤさんはすごいですね〜あんな細い目でどうやって見てるんですかね〜？」

使えないポニテ娘……いやおっとりポニテの千火が微笑みながらこちらにやって来た。

「いや、孝也の能力はエスパー系だから見なくても体は感じ取っ

ているらしいよ」

「ホントくに、このパーティー敵なしですよ」

「ホントだね千火さん!!!」

そんな話を話しながら孝也とミキさんが機械を鉄屑に変えるまで  
三人でボケーとその様子を見ていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4554i/>

---

自由都市の方針

2011年1月12日15時20分発行